

〈筑波大学附属病院・婦人周産期グループで行われている介入を伴わない後方視的観察研究〉

患者様へ

このコーナーには当診療グループで行われている多施設共同の「介入を伴わない後方視的観察研究」が列挙されています。「介入を伴わない後方視的観察研究」とは、既に治療が行われた患者様の診療内容についてカルテ（診療録）から調査し、カルテに記載されている範囲内で分かる最新の患者様の健康状態などと照らし合わせて、これまで行われた治療の問題点を探り出し、その解決法を探ったり、新しい治療体系を構築したりする研究を行うものです。当診療グループで行われるこのような観察研究では、ご氏名やご住所など個人を特定できる情報は病院外には提供いたしておりません。

このような観察研究の対象となる患者様の中には既に治療や外来通院期間を終えられていたり、転居などで当院には通院していらっしゃらなかったり、またご不幸な結果を迎えてしまった患者様も含まれ、研究へのカルテの情報の提供につき、患者様1人、1人に説明しご同意を得る事は現実的には不可能です。

そこで、このコーナーのような形で研究内容を公開しております。もし、ご自身が研究の対象者に該当する可能性があり、研究への診療情報の調査を行ってほしくないなどのご意志や苦情等がございましたら、研究項目毎に「保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先」が記載されておりますのでお問い合わせください。研究結果が公表されるまではいつでも拒否することが出来ます。

本研究の対象者は2017年10月に、日本医療研究開発機構委託研究費（医薬品等規制調和・評価研究事業）分娩研究「産科ガイドラインの改定および他学会診療ガイドラインへの提言」としてアンケート調査を行い、回答していただいた、全国の初期臨床研修病院395施設の指導医である。

研究課題

初期臨床研修施設へのアンケート調査による初期臨床研修医への『妊娠・授乳と薬』についての研修の現状

研究の意義・目的

2020年度より初期研修医の産婦人科研修が再必修化されるが、医師臨床研修指導ガイドラインには、「妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患における医学的対応などを含む一般診療において、頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応等を習得する」、「他の診療科においても、妊婦の診療時には処方薬に特段の注意を払う必要があることを学ぶ」と、初期臨床研修における『妊娠・授乳と薬』の研修の必要性が具体的に記載されている。しかし実際にその研修がどのように行われており、どの程度習得できているのかを調査した先行研究はなく、明らかではない。今研究の目的は、日本中の初期

臨床研修病院へアンケートを行い、初期臨床研修における『妊娠・授乳と薬』研修の現状を明らかに、その結果を検証することである。

研究の方法

2017年10月に全国の初期臨床研修病院395施設の研修管理委員長宛にアンケートを郵送して調査を実施した。回答期間は1ヶ月とした。調査項目は、各施設の病院規模、形態、研修医の定数、そして初期臨床研修医を対象とした『妊娠・授乳と薬』に関する指導・教育方針については、選択肢形式で調査した。また『妊娠・授乳と薬』の指導・教育を行う上での意見や問題点を自由記述で挙げてもらい調査、解析した。

代表施設名、研究組織代表者

筑波大学医学医療系 臨床医学域 婦人・周産期 講師 八木洋也

保有する個人情報に関する利用目的

後方視観察研究

保有する個人情報の開示手続

筑波大学附属病院のホームページにある「お知らせ」の中の「筑波大学附属病院の個人情報の取り扱いについて(PDF)」を参照。

保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

筑波大学医学医療系 臨床医学域 婦人・周産期 八木洋也

TEL: 029-853-3073 (産婦人科 平日 9:00~16:00) , FAX: 029-853-3072